



江戸川大学学生新聞

THE EDOGAWA TIMES

VOL.9 #1
2019年8月21日(水)

取材/編集: 学生記者クラブ
発行: 江戸川大学企画総務課

今年も好評 ハーバリウム・クラフト体験

2019年流山グリーンフェスティバル報告



5月4日みどりの日、流山おおたかの森駅の南口都市広場で流山グリーンフェスティバルが開催され今年も江戸川大学の学生たちが活躍した。(撮影: 西野小夏 大場正太郎 宮内 優 取材・文: 西野小夏)

流山グリーンフェスティバルとは。

ゴールデンウィーク中に毎年開催される流山グリーンフェスティバル実行委員会主催・流山市共催の市民祭り。今年のテーマは「都心から一番近い緑のまち」。アトラクションやフリーマーケット、さまざまな出店やイベントもあり、毎年3万人を超える来場者でにぎわう。

江戸川大学からも教員が実行委員として、また学生たちが運営に協力している。

今回紹介したドライフラワーによるクラフト体験以外にも、江戸川大学生による仮想広告会社エド・アドは、駅から広場へ続く階段にステップアートを貼り、児童向けにその絵についての間違い探しを実施したり、会場メインステージでのイベントのMCや運営にも協力している。また、江戸川大学の教員と学生たちがデザインをし、会場中央に展示された花絵は今年も好評だった。



今年も天気に恵まれ、多くの人々がフェスティバルを訪れた。



井崎義治流山市長と江戸川大学のデザインで製作した花絵。



大階段のステップアートとチラシのイラストで間違い探し。

江戸川大学現代社会学科の土屋薫教授のゼミ生を中心とした3年生7人、2年生11人の学生たちは「ドライフラワーによるクラフト体験」のイベントを行った。なかでも昨年も好評だった「ハーバリウム」を軸に取り組んでいた。

ハーバリウムを実施するのはこれで3回目になる。初めて行ったときは、試験的に実施された企画だったが、想像をはるかに超える人気企画となった。

そのため、昨年から完全に予約制で本格的に実施されるようになった。予約は当日行われた。約2000人の賑わいを見せた。

ハーバリウムの魅力は、製作に手間がかからず長期にわたって楽しめることだ。生花ではないので、水やりをする必要もない。花が枯れる心配もない。瓶の中に自分好みのドライフラワーを入れ、専用のオイルに浸すだけだ。

生花ではなくドライフラワーを挿入する理由は、保存性に優れていて、時間がたっても色がくすんだり、変形しにくいからだ。

また、太陽の光が当たるところに飾ると、反射によって、見え方が変わる。日によって光が作り出す色彩も変化するため、毎日見ていると飽きない。

当日は青空が広がり25度まで気温も上がり5月としては厳しい暑さだったが、体験に来た子どもたちは、完成したときには「楽しかった」と笑顔を向けてくれた。